

●日本の読者の皆様へ●

『Uniquely Human : A Different Way of Seeing Autism (ユニークリー・ヒューマン：自閉症のもうひとつの見方)』が日本語に翻訳されたことにとっても感謝している。私は、45年間自閉症の分野に携っているが、その経験の中で、自閉症のある子どもや成人とその家族から学んできたことをすべて本書に記した。本書が専門家、家族、自閉症のある方々の学びとなれば幸いである。『ユニークリー・ヒューマン』は2015年7月にアメリカで刊行され、家族、専門家、自閉症のある方々から肯定的で満足度が高い反響をとっても多くいただいている。

専門家によるレビューや数百に及ぶ家族、教育者、セラピストからのコメントでは、『ユニークリー・ヒューマン』は自閉症理解のパラダイムをシフトする〈考え方を劇的に変化させる〉と述べられている。自閉症を治癒されるべき疾患として描写する代わりに、『ユニークリー・ヒューマン』では人間のユニークなあり様として提示している。自閉症児者を不完全なものとして直しを必要としている対象のように描くよりもむしろ、ユニークな方法で学習したり関係性を発達させていく人物として描いている。自閉症の人々をより「普通」に見えるようにすることに焦点を当てるアプローチがある一方で、『ユニークリー・ヒューマン』は、自閉症の人々が自分らしくあることの価値を認めている。「普通」になることではなく自分自身になることを支援するための枠組みを支持している。『ユニークリー・ヒューマン』が示す見方によって、自閉症スペクトラム障害のある方々への理解を深め、彼らが最高の自分になるための支援の仕方を知ることができるだろう。

『ユニークリー・ヒューマン』で支持しているアプローチは、大きな共鳴を得ている。自閉症コミュニティにおいて、『ユニークリー・ヒューマン』は、ニューロダイバーシティ〈神経または脳の多様性〉を認め、促進しようとするムーブメントをより一層後押しする歴史に残る画期的な作品として広く愛され認められている。国際連合は『ユニークリー・ヒューマン』の大きな貢献を認め、2017年3月31日に「自律と自己決定を目指して」をテーマにした世界自閉症啓発デーに向けて推薦図書として指定した。アメリカ自閉症協会は『ユニークリー・ヒューマン』の多大な影響を認めて、2017年の「Dr. Temple Grandin Award for the Outstanding Literary Work in Autism」〈自閉症のある方々

とその家族の人生に貢献する著作を賞するもの〉に選出した。刊行以来、ハーバード大学医学大学院の「自閉症スペクトラム障害カンファレンス」(2016年11月)、国際連合の「世界自閉症啓発デー」(2017年3月)、「アジア太平洋自閉症カンファレンス」(2017年9月、オーストラリアのシドニー)など、『ユニークリー・ヒューマン』におけるテーマでとても多くの講演をしてきた。

長崎博士を始めとするチームが『ユニークリー・ヒューマン』を翻訳してくださったことに深く感謝している。自閉症のある子どもや成人とその家族を支援する大切な仕事に多くの年月をかけてきた長崎博士とその教え子や同僚と協同することができとても幸運である。特に、『ユニークリー・ヒューマン』で示されている価値観や教育方略を実現する教育・療育アプローチである、SCERTS^{サーツ}モデルを日本に紹介してくれた素晴らしい仕事に感謝している。

すべての自閉症のある人とその家族が、理解と敬意を得ることが当たり前となるよう願うとともに、本書がその一助となれば幸いである。

バリー
Barry M. プリザントPrizant,

学術博士、米国音声言語聴覚協会認定言語療法士

ブラウン大学特任教授

「Artists and Scientists as Partners」プロジェクト担当

ロードアイランド州克蘭ストン「Childhood Communication Services」所長